

令和元年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立西部特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立西部特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部

1. 使用状況

寄贈物品名	サイバーホイール
使用学年及び人数	小学部1年生から中学部3年生
使用頻度	サイバーホイールを用いた学習中は、ほぼ毎日(1カ月程度)
使用状況	<p><小学部> ○单元名 生活单元学習「楽しく遊ぼう」(全8回のうち5回使用) ○使用の方法 ・体育館内に設置したアスレチック遊びに向かう時と出口に向かう時の移動手段として使用した。ペアを作りサイバーホイールの中で児童が横になり、サイバーホイールを児童が押しながら進む活動を行った。</p> <p><中学部> ○单元名 なかま(生活单元学習)「ブルー・ハワイへ、レッツ・ゴー」(全20回のうち15回使用) ○使用の仕方 ・中心となる活動の遊具として使用した。生徒は遊具を横倒しにしたところに仰向けに寝て活動した。普通のテンポ、激しいテンポの2種類のBGMを切り替えながら教師が遊具を操作することで、その刺激や動きの変化を楽しんだ。</p> <p><その他> ・昼休みや学級活動の時間に遊ぶ児童生徒もいた。</p>
物品の使用による変化や効果	<p><小学部> ・押す児童が中に入る友達の様子を見ながら押していた。 ・行きと帰りで押す児童と中に入る児童が交替することで、両方を楽しむことができていた。 ・少し遅れて学習に参加した児童がいた時に、すでにアスレチックで遊んでいた児童らが入り口に向けより、みんなで押してあげる姿が見られた。</p> <p><中学部> ・初めて体験する遊具だったため、初めにやる生徒は恐る恐るという感じであったがすぐに慣れ、笑顔が見られた。 ・楽しんでいる友達の様子を見て、「やってみたい。」と、ほとんどの生徒が意思表示をした。 ・笑顔の見られた遊具の操作の仕方は、生徒によって異なった。激しく転がすことで遊具の中で自分も横転する活動を喜ぶ生徒もいれば、遊具を上下に揺らす動きを好む生徒もいた。 ・BGMが激しい曲に切り替わり、遊具の動きが激しく変わると笑顔を見せる生徒がほとんどだった。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>・年間計画の中で、サイバーホイールを使用する単元を決め、他学部と重ならないように調整する。 ・活用のイメージを教員が持ちやすいよう、活用例を全体に示し、活用の幅を広げ活用回数を増やしていく。</p>
その他 希望や所感など	

2. 活用の様子

＜ペアになり、サイバーホイールの中で横になる児童とサイバーホイールを押しながら進む児童と役割を分担。中の友達の様子を確認しながら進んでいた。＞



＜遊具を横倒しにしたところに仰向けに寝て、普通のテンポ、激しいテンポの2種類のBGMに合わせて動くサイバーホイールの刺激や動きの変化を楽しんだ。＞

